

第 23 回健康スポーツ部会における主な意見

＜議題（1）ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの推進について＞

- 部会で議論を重ねる中で、ライフパフォーマンスの向上に向けて、目的を持った運動・スポーツの推進の意味づけや位置づけが明確になったと感じた。人生 100 年時代において、病気は医療の発達でコントロールできるので、前向きに生きがいを持って生き続けるために、このライフパフォーマンスを上げることを目的として、生活習慣の中にスポーツを通じて位置づけることは非常に重要。
- 無関心層に向けた周知の方法について、どのように訴えるかは悩ましい課題であり、今後どのように進めていくか検討する必要がある。その中で、健康とどう結びついているかのエビデンスを、いかに多く集め、どう見せるかが重要ではないか。
- アカデミアにあまりスポーツ庁の動きや情報が届いていないため、周知するための具体的な仕掛けをつくったほうが良い。
- 工程表において、令和 7 年度までの計画が示されたが、達成状況について、どのような指標で何を測るのか。ライフパフォーマンス向上の効果を測るとするのは漠然としているため、効果についてはある程度調査で追跡できると良い。
- 例えば地方公共団体の健康増進関係部署に周知するために、厚生労働省と連携して通知を発出する等、スポーツ庁からだけではなく、様々な角度からの周知が重要である。
- 障害のある方は必ず病院に通っているため、病院から地域のスポーツ施設やスポーツの情報、運動につながるようなネットワークが結べれば良い。
- 学術団体や地方公共団体、関係団体（スポーツや健康等）の研修会、各種資格取得の講習会等、医師会等、多方面への周知が必要。
- 「ライフパフォーマンス」という言葉を普及させるには、スポーツ庁から発信される媒体でなるべく目立つようにすることや、長官から「ライフパフォーマンス」という言葉を色々なところで発言することが重要。また、その言葉を聞いたときに、ライフパフォーマンスがどういうものだという共通認識が持てるよう、イメージをつくれるとよい。
- 既に社会実装されている好事例を、どのように地方公共団体や民間企業に展開できるかという視点も重要。事業化するまでには、莫大な期間と費用がかかるので、既に良い取組があれば、それを広めることも並行して検討してはどうか。

- 評価に取り組むうえで、どのような姿を目指していくのかも非常に大事。これからの健康スポーツ部会を通じて、事業の進捗をスポーツ庁から御報告いただきながらブラッシュアップできれば良い。

<議題（２）現場視察・ヒアリング及びガイドブックについて>

**（視察 ①株式会社カーブスジャパン ②ルネサンス蒔田 ③横浜市スポーツ医科学センター
④ 株式会社 NISHI SATO ⑤公益財団法人日本サッカー協会）**

- ルネサンス蒔田は、生きがい創造企業を標榜されており、普通のフィットネスクラブに加えて、リハビリセンター、リハビリステーション、障害を持ったお子さんが参画できるようなプログラムをもつ元氣ジム Jr があり、既存のファシリティをうまく活用していると感じた。
- NISHI SATO は、現社長が社員の健康を心から考えており、一人一人の働き方も環境も異なる中でいつでも誰でも自由に始められる体制づくりができるよう、ルールはあえてつくらないという、自由な取組を行っている。他社でも同様のマインドが広がれば、忙しい働く世代のスポーツ実施率が向上するきっかけになるのではないかと。
- 横浜市スポーツ医科学センターは、ハイパフォーマンスの知見をライフパフォーマンスに展開する意味で、運動療法やスポーツ教室、健康教室等を展開されており、他の自治体にとって参考になる。他方、市内のクリニック、病院、スポーツ関係者等々と情報共有をしながら、市全体が「面」で様々な取組が展開できることを望みたい。
- ガイドブックでは、「何かやりましょう」ばかり言われるとネガティブな印象を抱く方もいるので、課題をどのように段階的に克服してきたのか、その課題は自治体レベルで解決ができるのか、現制度下では克服することが難しいため政策的なプッシュが必要なのかなど、課題解決の道筋を示せるようなものであるべき。
- 政令指定都市だからできるといったことにならないよう、ガイドブックに盛り込む事例の中では、町村などの過疎地域で活用できる部分があるよう留意が必要。

（以上）